



三島地区コミュニティだより

道標

第 1 4 6 号

創刊日 昭和63年 6月20日

発行日 令和 2年 3月20日

発行責任者 三島地区コミュニティ広報部



◆ 第6回 どんど焼き 開催

1月26日(日)

冬晴れの中、三島神社境内で恒例となった「どんど焼き」が行われました。

今年も三島中学校生徒がボランティアとして、前日の準備作業から当日のお手伝いを実行委員と一緒に行いました。



11時半からの「がらまき」



祭司の祝詞



点火

採火された火をトーチに



◆ 地域住民助け合い事業研修会(福祉部)

～ 知的障がい擬似体験会 ～

2月19日(水)



8月の福祉部研修会の経験をもとに、知的障がい啓発隊「カラフルBOX」の皆さんを講師に迎え、地域住民助け合いに関わる関係者（要支援者サポーターや民生委員など）への体験会を開催しました。体験後、参加者はグループに分かれて意見を出し合いました。



第35回 凧揚げ大会

1月18日(土)

まずまずの凧揚げ日和のなか、100名を超える保護者と子ども達が集まり、三島小PTA・三子連主催の恒例の凧揚げ大会が三島体育センターグラウンドで行われました。

お気に入りの凧を揚げて、楽しい1日を過ごしました。



◆ ボランティア事業研修会(福祉部)

2月25日(火)

福祉部所属のボランティアのみなさん37人が参加しました。今年は、民話語りのボランティア活動を行っている「民話の会にしなすの」の皆さんをお招きし、九尾の狐の物語から始まり、思わず笑ってしまう話やしんみりとする話、ためになる話などを聞かせていただきました。

ボランティアの皆様には、今後とも末永くご活躍をいただきますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。





～ 田んぼの学校 (しめ飾り作り) ～



12月15日(日)三島公民館で年末恒例のしめ飾り作りが行われました。田んぼの



学校の生徒さんのご家族24名と関係者の方々が、田んぼの学校の方々から指導を受けながらしめ飾り作りを体験しました。個性豊かな22個のしめ飾りが出来上がりました。



◆ コミュニティ「そば打ち講習会」

12月15日(日)

三島公民館で年末恒例のそば打ち体験が行われました。14名の方々が、富山さん、花井さんのご指導を受けながらそば打ちを体験しました。2時間弱でおいしそうなおそばが出来上がりました。



「古布」寄付のお願い



福祉部では、ボランティア事業として介護福祉施設で「ウエス作り」を行っています。

「ウエス」は、ご家庭で不要になったタオルやシーツ、Tシャツなど吸水性の良い綿製が好まれます。現在このような古着が不足しており、随時受け付けをしていますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

～ 三島公民館に直接お持ちください ～

◇◇ 「文房具」寄付のお願い ◇◇

現在、まだまだ使用できる文房具(定規、鉛筆、シャープペン、消しゴム下敷きなど)を集めています。集まった物品は那須塩原市社会福祉協議会を通じて、市在住の支援を必要としている子どもたちに届けています。

三島公民館に直接お持ちください。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。





～地域だより～



▼ 東赤田：恒例の新年会

1月5日(日)



公民館で新年交流会を開催しました。杵を握る人と「こねどり」をする人とそれを見守る人で餅つきが始まると幼少時代の餅つきの思い出話で会話が盛りあがりました。子どもたちは餅をパックに詰めるお手伝いをし、その後の「ガラ撒き」では、お菓子や



日用品などをたくさん拾い、活気に満ちた新年のスタートとなりました。

▼ 東三島：まゆ玉づくり

1月26日(日)



育成会親子60人が参加し、“まゆ玉づくり”を行いました。

自治会3役と文化部福祉部員の方々が子供たちと協力し準備したミズ木に五色のまゆ玉を飾り付け、2時間ほどで完成し、皆でおいしく食べた後、子供たちは、それぞれに親子で三島神社に行きました。厄除けのガラまきの後にとり小屋に点火、弱火になった火でまゆ玉を焼き、無病息災を祈願し無事に終えました。

▼ 南郷屋：まゆ玉づくり（世代間交流）

1月11日(土)



恒例となった育成会参加の世代間交流で“まゆ玉づくり”を行い73名が参加しました。

色とりどりのまゆ玉（団子）を作り、子供たちと一緒にミズ木に飾り付け、見事に完成しました。この後、当自治会の後藤悟さんより、“まゆ玉”と“どんど焼き”のいわれについてのお話を聞き、おいしいお雑煮を食べて有意義な小正月を過ごしました。

編集後記 今年の冬は、暖かく過ごしやすかったと思いましたが、新型コロナウイルスが流行り出してしまいました。チャーター機、豪華客船等まるで映画の世界を思わせる様相です。

最も不安なことは、正体が未だにはっきりとしていないこと、有効な薬が無いことではないでしょうか。そして、いたずらに怖がらず新聞、テレビ等の情報を正しく理解し行動することが大切なことであり、一刻も早い終息を祈るばかりです。冬も、もうすぐ終わり、春を思わせるこの頃ですが、感染に留意し、この難局を乗り切りましょう。(S.H)